

「風邪かな？」と思ったら、
早めにかかりつけの
病院・医院で診察を受けて、
先生に相談しましょう。

病院・診療所名



株式会社 タウンズ

赤ちゃんのいるご家庭へ
RSウイルスって
なあに？

監修：やました小児科医院 院長 山下 祐二 先生

01

RSウイルスとは？

RSウイルス感染症は、毎年冬季に流行し、2歳くらいまでにほとんどの乳幼児が感染する病気です。

RSウイルスは風邪の原因ウイルスの一つで、赤ちゃんから大人まで何度もかかります。

多くは、風邪症状で済みますが、赤ちゃんやお年寄りでは重症化して細気管支炎・肺炎などの症状を起こすことがあるので注意が必要です。



RSウイルスの
電子顕微鏡写真
(CDCホームページより)

02

RSウイルス 感染症の症状

感染後4～5日の潜伏期を経て、鼻水、咳、発熱などの症状が現れます。さらに進むと気管支炎や細気管支炎を発症して、呼吸する時に「ゼーゼー」とか「ヒューヒュー」といった喘鳴が現れてきます。中耳炎を合併することもあります。通常は1～2週間で回復しますが、未熟児や心肺に基礎疾患のある小児は重症化しやすい傾向があります。重症化した場合は、入院治療が必要になります。

新生児では発症後に無呼吸を起こすことがあるので特に注意が必要です。

RiSU



03 RSウイルスの 診断法

インフルエンザの検査と同じように、綿棒で鼻腔や鼻汁をぬぐって検査をする迅速診断キットがあります。かかりつけの先生に相談してください。

04 迅速診断キットの 有用性

この病気は、冬季に流行する代表的な呼吸器感染症です。原因がRSウイルスとわかれば、細菌感染の合併症がない限り抗菌薬というお薬を飲む必要はありません。迅速診断キットで検査をして、医師から検査結果の説明を受ければ、保護者の方々の不安も和らぐので、とても有用です。

RiSU



05 RSウイルスの 治療は？

残念ながら、RSウイルスに効くお薬はありません。
発熱や呼吸器症状を和らげるための対症療法が主体になります。去痰剤や気管支拡張剤を処方することがあります。細菌感染の合併が疑われる場合は抗菌薬を使用します。

06 保護者の皆様へ

- ◆脱水症状を起こさないよう、上手に水分を与えてください。
- ◆鼻づまりがあれば鼻水を吸い取ってあげてください。
- ◆加湿器などで部屋の湿度を調節して呼吸が楽になるように工夫してあげましょう。
- ◆患者と接した後は、手をよく洗ってうがいをしましょう。



07 予防

この病気の予防接種はありません。
RSウイルスは、呼吸器からの飛沫や手指、物を介した接触によって感染します。家族内感染が起こりやすく、幼稚園や保育園に通ってる園児から家庭内に持ち込まれることが多いため、乳幼児や園児がいる家庭では特に注意が必要です。
手洗いやうがいを励行し、日常的に清潔を保つように心がけましょう。

RiSU

